

■ 全体講評

「毎年、受験者のレベルが上がる」という全体講評です。午前Ⅰ・Ⅱでは、公開模試では本試験の過去問題を出題していません。特に、午前Ⅱの難易度は高かったと判断します。午後Ⅰ試験は、本試験と同程度の難易度だったと判断します。午後Ⅱは、本試験において繰り返し問うているトピックを題材に作問したのですが、問うている粒度を細かくして、局所的にしたため、問題としては難しかったと判断します。それにもかかわらず、高得点者が多いことは、受験者全体のレベルの高さの表れでしょう。特に、休日を返上して会場受験した方の学習意欲は強いため、学習量も多く、その結果、得点力も高いと判断します。

例年に比べて、記述式や論述式において、体裁の整った解答が多いことから、レベルの高い試験になることが予想できます。去年の SA 試験では、記述、論述式試験で高得点できる受験者が午前Ⅱ試験で足切りされました。午前Ⅱで問われる用語の知識をしっかりと学習する必要があります。今年は、今回で合格できるように一緒にがんばりましょう。

次に午後Ⅰ記述式問題の各問について、採点基準と講評を説明します。

<午後Ⅰ>

問1 経理業務のシステム再構築

【採点基準】

〔設問1〕

- (1) (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。その他は、基本的に 0 点。
- (3) 作成の観点：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。ただし、「発注書」というキーワードの解答は 2 点の部分点、その他は、基本的に 0 点。
- 承認の観点：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。その他は、基本的に 0 点。
- (4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

〔設問2〕

- (1) 解答例と同じものに 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。ただし、「リアルタイム」又は「表

計算ソフト」のどちらかを必須としました。その他は、基本的に 0 点。

〔設問3〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。ただし、「受入処理と検収処理を連動させる機能」を別解としました。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

設問にある条件をすべて満足する解答を作成しましょう。設問 3(2)では、システム名と処理名を含めることが設問で指定してあります。処理名だけ、システム名だけの解答が目立ちました。

本番では、余った時間を使って解けない設問を解くことも重要ですが、同じくらい、解けた設問の解答が、設問の条件をすべて満足していることを確認することも重要です。具体例を次に説明します。

設問 2(1)では、設問文で情報名について問うていません。したがって、「～情報」というキーワードを優先して問題文中を探すことポイントです。

設問 3(1)問題文の〔購買管理及び売掛管理の現状〕の(4)と(5)の記述から、受入処理と検収処理が統合できることが分かるのですが、それは設問 3(1)ではなく、設問 3(2)で統合について問うているので、ここで答えるべきポイントです。

問2 バンガロー管理事務所における予約システムの設計

【採点基準】

〔設問1〕

- (1) 解答例と同じものに対し各 1 点。その他は、基本的に 0 点。合計 5 点
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。その他は、基本的に 0 点。ただし、「宿泊部屋数」を含んでいれば 2 点の部分点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。その他は、基本的に 0 点。

〔設問2〕

- (1) 解答例と同じものに対し 6 点。その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同じものに対し 3 点。その他は、基本的に 0 点。

(3) 確認する内容：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。なお、予約済部屋番号取得()あるいは空室部屋番号取得()を使って適切に表現している解答や、宿泊明細クラスの属性を基に適切に表現している解答を別解としました。その他は、基本的に0点。

クラス名：解答例と同じものに対し各2点。その他は、基本的に0点。合計6点。ただし、解答例にない解答は一つにつき-2点の減点。なお、減点対象から「顧客クラス」と「予約管理クラス」は除きました。

【設問3】

(1) 解答例と同じものに対し各2点。その他は、基本的に0点。合計8点。ただし、解答例にない解答は一つにつき-2点の減点。なお、減点対象から「予約管理クラス」を除きました。

(2) 解答例と同じものに対し4点。その他は、基本的に0点。別解として「部屋クラス」を4点

【講評】

たとえ正しい解答であっても、**解答条件を絶対に満足する解答を作成しましょう。**設問3(1)では、クラス名を一つ挙げるのが求められています。このようなケースでは、どのようなことがあっても、解答を一つに絞るようにしてください。過去の本試験問題に、一つだけ解答する設問にもかかわらず、試験センター発表の解答例には、解答が複数挙がっていました。この場合、解答を複数挙げて、不正解になると考えられます。理由は解答条件を満たしていないからです。

設問3(2)の別解について説明します。「部屋クラス」について、解答解説において「間違いではない」と記述している点、更に、部屋クラスが間違いである理由が書いていない点を踏まえて、「部屋クラス」を別解としました。

問3 設備管理システムの設計

【採点基準】

【設問1】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各7点。その他は、基本的に0点。合計14点。

【設問2】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。ただし、保守に関する記述のない解答は部分点の3点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

(1) 解答例と同じものに対し各4点。その他は、基本的に0点。合計8点。

(2) 解答例と同じものに対し各4点。その他は、基本的に0点。合計8点。

(3) 解答例と同じ項目を各2点、その他は、基本的に0点。合計最大6点。ただし、正解と異なる項目が挙がっている場合は、一つにつき0点になるまで-2点の減点。

【講評】

問題文に書かれている記述から得られる結論を解答に盛り込みましょう。具体的には次のとおりです。

設問1では、問題文の〔設備管理の現状〕に書かれている「保守のタイミングが悪い」、「実質的な耐用寿命に達しているにもかかわらず、使い続けている」という記述から、「定期保守タイミングの見直し」、「設備寿命の見直し」という解答を導きます。

設問2(2)では、問題文の〔設備管理の現状〕に書かれている「異常状態を放置すると、故障につながりやすい」という記述から「予防保守の実施」に関する解答を導きます。

問4 栽培管理パッケージの開発

【採点基準】

【設問1】

(1) 解答例と同じものに対し各3点。その他は、基本的に0点。合計6点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

【設問2】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。ただし、「ユニット区分」と「センサ種別」片方の解答は部分点3点、その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同じものに対し5点。その他は、基本的に0点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。その他は、基本的に0点。

(4) 解答例と同じものに対し4点。その他は、基本的に0点。

【設問3】

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。ただし、「暗号化」という言葉を使っていない解答は部分点3点。その他は、基本的に0点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているも

のに対し7点。その他は、基本的に0点。

【講評】

解答の中には、**できるだけ問題文にあるキーワードを盛り込む**ようにしましょう。適切なキーワードが問題文にない場合は、解答者が専門知識に基づいてキーワードを探して盛り込みます。を具体的には次のとおりです。

設問2(3)において解答する際には、問題文にあるキーワードを使って解答を作成します。〔システムの処理概要〕の(4)の④にある(イ)で使われている「保存した設定値」が該当します。

設問3の対策において、「判別できないようにコード化して」という解答がありました。鍵の管理の問題などがありますが、このような設問では「暗号化」というキーワードが求められていると考えてください。

次に、**問題文の表現に合わせて解答を表現**しましょう。設問2(2)の解答は「72.0」となっています。これを「72」と書かないようにしましょう。設問文には、数値の表現について書いてありませんが、問題文をみると表3の開始時間はすべて、小数第1位まで書いてあります。この表現に合わせましょう。

<合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を目指しましょう。試験の形態ごとには次のような改善策があります。参考にしてください。

その前に、みなさん、漢字を手書きする機会が少ないので、次の2点に留意して学習を進めてください。

・誤字に注意する

特に、「専門」を「專問」、「実績」を「実積」、「暗号」を「暗合」、「購買」を「購売」、「看護」を「患護」と書くケースが多いので、記述・論述式試験では気をつけましょう。

・略字を書かない

試験の採点者には、研究者もいるので、論文の体裁には注意が必要です。したがって、略字は書かない方が無難です。

〔午前Ⅰ・Ⅱ多肢選択式問題〕

基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強するようにしましょう。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

今年、素晴らしい論文を書いている受験者に、去年不合格になった原因を確認したところ、ほとんどが、午前Ⅱにおいて、専門用語に関する問いで不正解が多かった方でした。午前Ⅱ対策は試験の当日まで、継続

するようにしましょう。

〔午後Ⅰ記述式問題〕

過去問題の演習を中心に、解答を鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件をすべて満足する解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前に、もう一度解答条件をチェックしてみましょう。

〔午後Ⅱ論述式問題〕

問題文を読解する際に留意する点は、要件定義の内容や設計の内容が本当に問われているのか、という点です。システムアーキテクト試験では設計内容などではなく、施策を中心に問われるケースがあります。設計内容なのか、施策なのかを問題で確認して、問題文の趣旨に沿ってしっかりと論述するテクニックを習得して実行してください。

課題を明示してから工夫や能力をアピールする展開はもちろんのこと、設問アで述べた、システムの特徴、ユーザ特性、業務特性など踏まえる展開を、設問イでできるようにしておきましょう。**システムアーキテクトは対象業務の特徴を踏まえて設計**することが、試験では求められていることを、各自、試験センター発表の午後Ⅱ講評で確認しておくといよいでしょう。

時間管理面からは、設問イからウに入るタイミングをしっかりと見計らって、時間内に論文を書き終えるようにしましょう。

—以上—